

# これからの自治会活動を考える

地域生活の課題  
へのアプローチ



地域活動

自治会活動は、地域づくりの核となる活動と言えます。現在、国はさまざまな方法で、地域づくりの支援を進めています。例えば、内閣府は、人口減少社会に対応するための「地方創生」の計画実施を支援、厚生労働省は、地域共生社会の実現を目指した「地域力強化」の支援、などが挙げられます。市も支援策の具体化に積極的に取り組んでいます。

しかし、取り組みが行政からのトップダウンとなると、自治会や地域活動団体にとっては、「やらされ感」

が付きまといまいます。住民と市との丁寧な対話が必要ですが、地域活動を持続させるためにも、住民が課題を提起することが求められます。

地域で孤立する人たちを支援する際には、地域活動に対する行政の継続的な支援が不可欠となります。そのための「対話の場」において、地域生活に課題を抱えた人への支援を目指す、地域活動の芽が生まれることを期待します。



日本福祉大学社会福祉学部

平野 隆之 教授

多様化する  
ライフスタイル



自治会活動

全国的に自治会加入率は減少傾向。昨年、尼崎市社会福祉協議会が未加入の理由を調べたところ、加入していない人が挙げた理由は、「役員をしたくないから」を抑えて、「何をやっているのかよく知らないから」がトップ。日頃から、子どもからお年寄りに至るまでさまざまな活動を行っているだけに、「活動を知らないから」という回答が多いことは、驚きをもって受け止められました。

家族や仕事の仕方が様変わりし、生活時間の組み立て方が異なる人が増えてきています。自治会活動の運営に

も、回覧板、ニュースレター、チラシの電子化、LINEやメールを取り入れるなど、誰もが関わりやすい方法を試してみることも大切では。実際、涼風町では地域のことに関心を持つ住民同士が無理することなくつながり運営できるような自治会を立ち上げています。市内の歴史と実績を兼ね備えた自治会と新しい自治会が風通しよく交流し、お互いの良いところを取り入れていくことができれば、現代にマッチした地域ボランティア活動としてより一層発展していけるのではないかと思います。



関西大学社会学部  
社会システムデザイン専攻

草郷 孝好 教授



伊藤自治会長

## オトナリサン、知ってますか？

一時は休止に近い状態でしたが、現在積極的に活動する岩園町自治会。自治会長と事務局長にその思いをお聞きしました。



Q:再開してからの感想は？

納谷：課題はたくさんあります。何かあったときに助け合える関係をつくりたいですが、皆さん色んなライフスタイルをお持ちの中で、町内の人同士の交流を進めることは難しいです。

伊藤：日常の些細なことも含め、顔が見える関係であれば解決することがいくらかでもあります。「向こう3軒、両隣の人と顔見知りになる。」こういった関係を築きたいですが、「その一番の基本が、一番難しい」。そのためには、「声かけするのみ」だと思っています。

納谷：岩園小学校PTA交流会の要請で、ラジオ体操に取り組むようになりました。開催初日には140人を超える参加者があり、町内にこんなに子どもがいるんだと驚いたことを今でも鮮明に覚えています。

Q:自治会活動の中で工夫点は？

伊藤：事務局があることです。自治会のこと全てを会長1人でやるとなると大

変です。納谷事務局長がおられることで助かっています。また、会長の任期を最長4年としていることも特徴の1つ。新しい風を定期的にいれていくことは大事だと感じています。

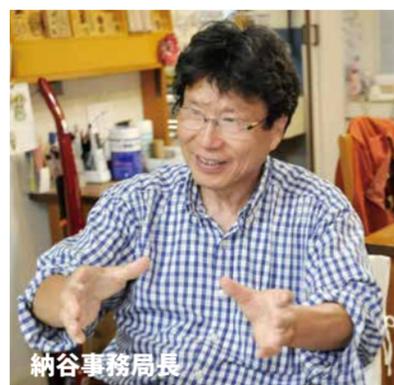
納谷：そのほかにも、岩園町自治会では活動費の一助となるよう資源ごみを回収し、活動費用全てを捻出しています。

Q:自治会活動への思いや、原動力は？

伊藤：原動力なんて大層なことは何もありません。引き受けたからには「何かをしたい」と思っているだけです。

今、自治会でお隣同士、顔が見える関係をつくる活動をしているのは、いずれ必ずくると言われている南海地震が起こったら、はじめの2・3日は自分たちで何とかしなければならいという思いからです。それには普段からのお付き合いが大切だと思います。

納谷：私も動機はありません。会社に勤めていた頃には自治会に興味はありませんでした。今では妻に驚かれるくらいです。



納谷事務局長

自治会活動を通じて感じたことは、自治会は行政の下部組織ではないということです。行政には安全で安心なまちづくりができるように、自治会活動をサポートしてほしいです。

また、最近のまちづくりでは、「お互いが助け合える仕組みづくり」と言われますが、仕組みではなくて気持ちが大事です。仕組みは狙ってできるものでもない。そういう意味では、本当のボランティアですね。

伊藤：「安全で安心がまず一番」

そのためにも、「顔見知りになるチャンスを増やす」という取り組みをしたいと思っています。

納谷：自治会への参加は強制ではありませんが、せっかく同じ町内に住む人同士、無関心・無接触が一番残念。興味を持ってほしいですね。若い人にも参加してほしいです。

## より良い自治会活動のために。

「芦屋市自治会連合会」をご存じでしょうか。

地域の課題を市と調整したり、自治会活動の補助をしています。役員の人から一言「小さなことからでも、ご自身がお住まいの地域の活動をのぞいてみてください」



「三役会」の皆さん

ぜひ、地域の活動に興味をもってくださーいね

左から、樋口会計担当・段谷副会長・田中会長・大永副会長・藤井副会長